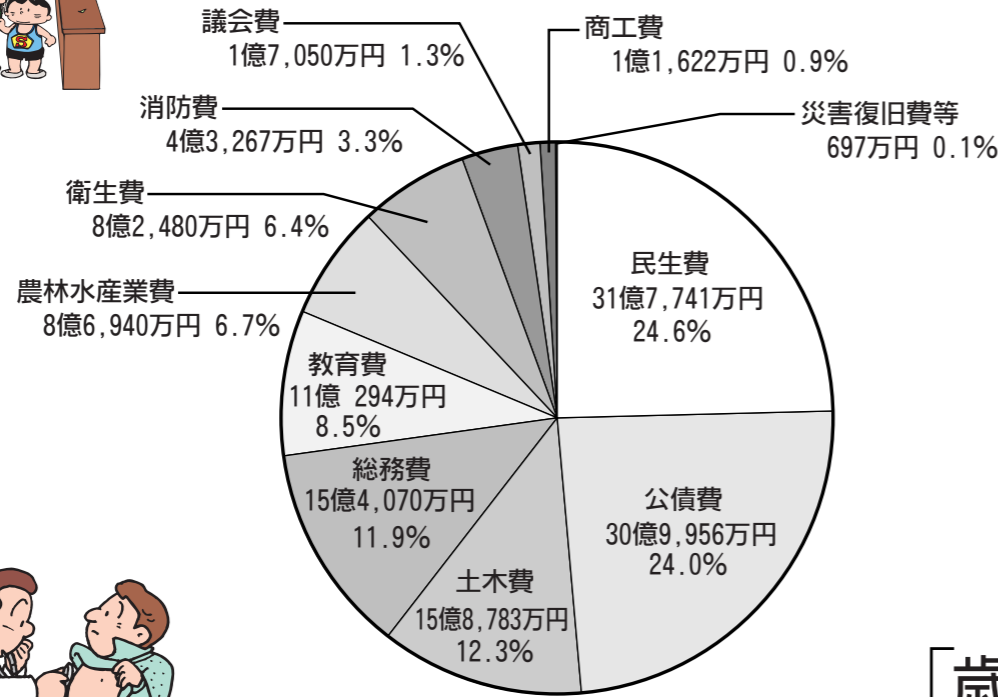


平成20年度一般会計当初予算

129億2,900万円

(前年度比5.1%減)

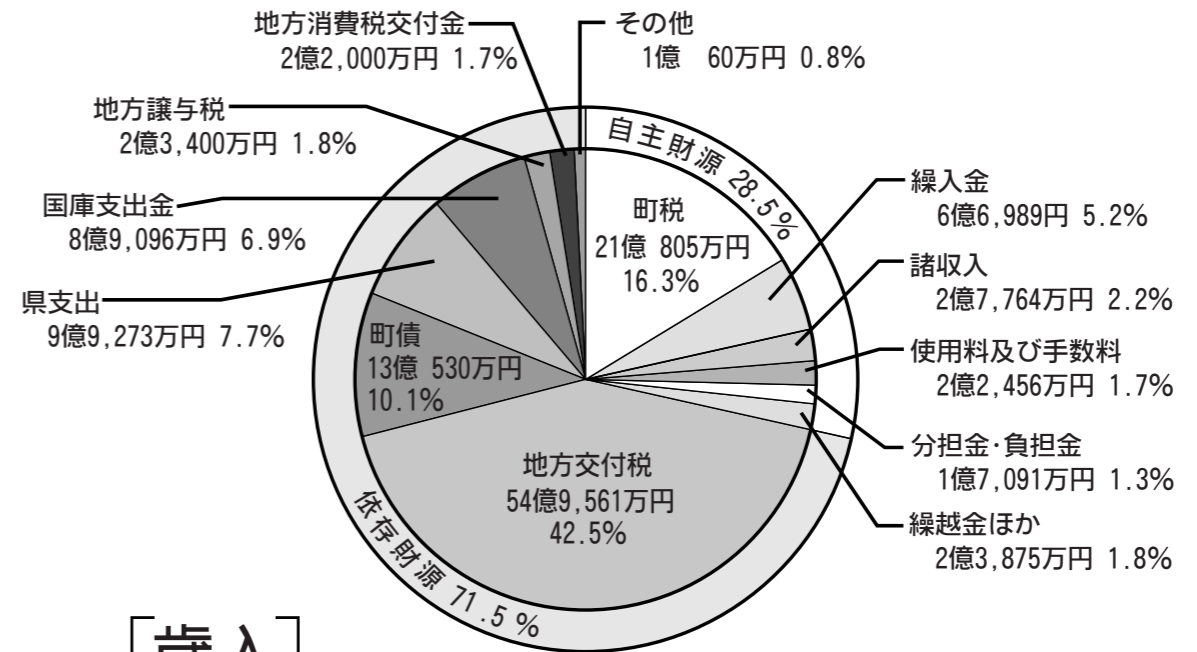


歳出合計 129億2,900万円

【歳出】

平成20年度の当初予算額は、129億2,900万円です。前年度当初予算額136億2,000万円に対し、5.1%（6億9,100万円）の減となりました。予算額が減少した主な理由として、前年度予算に平成18年度に発生した豪雨災害関連経費が含まれていたことや、行政改革の成果による公債費（借金の返済金）や人件費の削減などがあげられます。

三位一体改革により、国庫補助金、地方交付税、税源移譲などの一体的な見直しが行われており、補助金の廃止や地方交付税の削減など歳入は大きく減少しています。こうした中で、今後本格的な豪雨災害復興に要する多大な経費が見込まれることから、当面厳しさが続くものとして予想されます。引き続き徹底した行政改革を進め、中長期的な財政基盤の安定化を図る必要があります。



歳入合計 129億2,900万円

【歳入】

財政の状況

今、国や県においても、大きな財政改革が進められており、国から地方への補助金・交付金等も大きく削減されています。特に国から交付される普通交付税はここ5年間で約5億円も減少しました。地方で地域間格差が生じていることから、地方交付税において「地方再生対策費」の創設などの新たな枠組みが設けられるなど、明るいニュー・スーもありますが、依然として厳しい状況が続いています。

●歳出（使うお金）  
歳出の費目ごとの割合は、民生費（社会福祉費関係）、公債費（借入金の返済金）、土木費、総務費、教育費などの順で予算に占める割合が高くなっています。今後、国庫の補助事業の採択や確定に伴う追加事業、自然的要因に左右される災害復旧事業などの補正が見込まれます。

■借金の返済金（公債費）  
平成19年度末における借入金の残高は、218億8,955万円となり減少傾向にありますが、年間予算額を超える大きな金額になっています。これに対する年間の元利金返済額は30億9,381万円（一時借入金利息を除く）となりますが、このうち50%程度は交付税として国から助成されます。

●歳入（入るお金）  
歳入の主なものとしては、皆さんに納めていただく町税（16.3%）のほか、国から交付される地方交付税（42.5%）、国庫支出金（合併補助金含む）（14.6%）、借入金である町債（10.1%）などが多く占めています。しかし近年では国庫の財政も厳しい状況から、地方への補助金・交付金などが減少してきており、その分を地方が借金（町債）や貯金（基金）を下ろして歳入を賄っているという状況です。

■自主財源と依存財源  
自分の町で賄っている収入（自主財源。主に町税）は、36億8,980万円、全体の28.5%（前年比1.1%増）、逆に国庫支出金などに依存している財源は、92億3,929万円、71.5%（前年比1.1%減）となっており、国庫の施策の動向に左右されやすい状況にあります。自主財源比率は1.1%の増となりますが、この2～3年は貯金（財政調整基金）の減少に歯止めがかからず、厳しい状況が続くと思われます。

■借入金（町債）  
建設事業の財源や歳入の不足を補うため借り入れる町債は、13億530万円となっています。前年度の当初予算と比較すると、1億4,511万円の増となっています。平成20年度未見込では13億7,000万円（一般会計分）しか残りません。

■貯金（基金繰入）  
歳入の不足を補うために繰り入れる基金は、6億6,989万円となっています。前年度の当初予算と比較すると、1億4,511万円の増となっています。平成20年度未見込では13億7,000万円（一般会計分）しか残りません。